

試験場の研究部紹介

野菜花き試験場 佐久支場

野菜花き試験場佐久支場では、全国有数の葉洋菜産地を抱え、葉洋菜の安定生産を支える技術開発に重点的に取り組んでいます。また、過去に薬用植物の試験を実施してきた経過から、県外の研究機関の協力を得て薬用植物の栽培試験を実施しています。

●東信地域の葉洋菜に対する病虫害防除、栽培試験

近年、東信地域の葉洋菜ではアブラナ科野菜の黒斑細菌病・黒腐病、レタスべと病、ハクサイ炭疽病、ブロッコリー花蕾腐敗病・黒すす病などの病害の発生が問題となっています。これら病害の発生生態を明らかにするとともに、効果のある薬剤の選定、耕種的防除法などを組み合わせた体系防除の確立試験に取り組んでいます。

また、レタスの土壌病害では、以前から発生が確認されていた根腐病とともに、近年新たに黒根病とコルキールート病を県内で確認しました。これらの病害は地上部の症状は根腐病と類似していますが、根部の病徴から見分けることが可能です。今後は生産現場と連携しながら、防除対策の確立に向けて試験を実施していきます。



ブロッコリー黒すす病の病徴



レタスコルキールート病の病徴

栽培関係では、夏秋季どりの葉洋菜において作付け過剰の傾向にあり、品目転換を誘導する必要性が高まっているため、ネギ、タマネギなど葉洋菜以外の品目の栽培試験を実施しています。また、一部地域で問題となっているブロッコリーのホウ素欠乏症をはじめとする、葉菜類の生理・生育障害対策試験も実施しています。

土壌肥料関係では、葉菜類の効率的な施肥方法による減化学肥料栽培技術の確立試験に取り組んでいます。



ブロッコリーのホウ素欠乏症



追肥機による効率的施肥

●薬用作物の栽培試験

近年、漢方薬、生薬の需要が高まる中、生薬の約8割は中国からの輸入に依存しています。しかし、中国における需要の高まりや人件費上昇に伴う原料価格の上昇などによる安定供給への不安から、国内生産が望まれています。しかし、国内では栽培方法や種苗供給体制が整っておらず国内生産基盤の確立が求められています。そこで当支場では、県外の研究機関の協力を得て、カノコソウやセンブリなどの栽培改善に向けた試験を実施しています。また、ミシマサイコとトウキについては栽培マニュアルを作成しました。



トウキ及びミシマサイコ（左）の栽培試験



栽培2年目のセンブリ

電話番号

0267-25-3080